

### 3-2 10の学習場面

前提



## A 一斉学習

### A 1 教員による教材の提示

教師が教材を提示する際に、大型提示装置や児童生徒用端末に、画像・音声・動画などを拡大したり書き込みながら提示したりすることにより、学習課題等を効果的に提示・説明することができる。

また、児童生徒用端末や大型提示装置を用いて、画像・音声・動画などを含むデジタル教材を提示することにより、児童生徒の興味・関心の喚起につながるとともに、学習活動を焦点化し、児童生徒の学習課題への理解を深めることができる。



#### ツール

#### 方法と実践

- ・ 大型提示装置
- ・ 画像・音声・動画などを含むデジタル教材



## B 個別学習

### B 1 個に応じた学習

一人一人の特性や習熟の程度などに応じて個に応じた学習を実施するに当たり、個々の特性に応じてカスタマイズできるデジタル教材や、習熟の程度や誤答傾向に応じた学習者向けのドリルソフトを用いることにより、各自のペースで理解しながら学習を進めて知識・技能を習得することが挙げられる。また、発音・朗読、書写、運動、演奏などの活動の様子を記録・再生して自己評価に基づく練習を行うことにより、技能を習得したり向上させたりすることが可能となる。この際、デジタルポートフォリオを活用して記録したり、自己評価を行ったりすることも考えられる。



#### ツール

#### 方法と実践

- ・ 個の特性に応じてカスタマイズできるデジタル教材
- ・ 習熟の程度や誤答傾向に応じた学習者向けのドリルソフト
- ・ 画像・音声・動画記録再生機能
- ・ デジタルポートフォリオ



## B 2 調査活動

インターネットやデジタル教材を用いた情報収集、観察における画像・音声・動画などによる記録など、学習課題に関する調査を行うことが挙げられる。

児童生徒用端末等を用いて画像・音声・動画などの詳細な観察情報を収集・記録・保存することで、細やかな観察情報による新たな気付きにつなげることができる。また、インターネットやデジタル教材等を用いたり、専門家とつないだ遠隔学習を行ったりすることを通じて、効率のよい調査活動と確かな情報収集を行うことで、情報を主体的に収集・判断する力を身に付けることができる。この際、インターネット等で得た情報に記号や番号等を付してソートし整理することも考えられる。



### ツール

- ・ 検索ツール
- ・ デジタル教材
- ・ 画像・音声・動画記録再生機能
- ・ web 会議ツール
- ・ データ保存ツール

### 方法と実践



## B 3 思考を深める学習

シミュレーションなどのデジタル教材を用いた学習課題の試行により、考えを深める学習を行うことが挙げられる。思考を容易に繰り返すことにより、学習課題への関心が高まり、理解を深めることができる。また、デジタル教材のシミュレーション機能や動画コンテンツ等を用いることにより、通常では難しい実験・試行を行うことができる。



### ツール

- ・ デジタル教材のシミュレーション機能
- ・ 動画コンテンツ

### 方法と実践



## B 4 表現・制作

画像・音声・動画などのマルチメディアを用いて多様な表現を取り入れた資料・作品を制作することが挙げられる。

画像・音声・動画などのマルチメディアを用いて、多様な表現を取り入れることにより、作品の表現技法の向上につなげることが可能となる。また、個別に制作した作品等を自在に保存・共有することにより、制作過程を容易に振り返り、作品を通じた活発な意見交流を行うことが可能となる。



### ツール

- ・画像・音声・動画記録再生機能
- ・プレゼンテーションツール
- ・データ保存ツール

### 方法と実践



## B 5 家庭学習

児童生徒用端末を家庭に持ち帰り、動画やデジタル教材などを用いて授業の予習・復習を行うことにより、各自のペースで継続的に学習に取り組むことが可能となる。また、児童生徒用端末を使ってインターネットを通じた意見交流に参加することにより、学校内だけでは得ることができない様々な意見に触れることが可能となる。



### ツール

- ・画像・音声・動画記録再生機能
- ・デジタル教材
- ・web 会議ツール
- ・メール

### 方法と実践



## C 協働学習

### C 1 発表や話し合い

学習課題に対する自分の考えを、書き込み機能を持つ大型提示装置を用いて班や学級全体に分かりやすく提示して、発表・話し合いを行うことが挙げられる。児童生徒用端末や大型提示装置を用いて、個人の考えを整理して伝え合うことにより、思考力や表現力を培ったり、多角的な視点に触れたりすることが可能となる。また、児童生徒用端末を使ってテキストや動画で表現や考えを記録・共有し、何度も見直しながらかし合うことにより、新たな表現や考えへの気づきを得ることが可能となる。



#### ツール

#### 方法と実践

- ・ 大型提示装置
- ・ 文書作成ツール
- ・ 画像・音声・動画記録再生機能
- ・ データ保存ツール



### C 2 協働での意見整理

児童生徒用端末等を用いて班の中で複数の意見・考えを共有し、話し合いを通じて思考を深めながら協働で意見整理を行うことが挙げられる。クラウドサービスを活用するなどして、学習課題に対する互いの進捗状況を把握しながら作業することにより、意見交流が活発になり、学習内容への思考を深めることが可能となる。また、児童生徒用端末や大型提示装置に、クラウドサービスを活用して班の中の複数の意見・考えを書き込んだプレゼンテーションツールや、書き込みをしたデジタル教材を映すことなどにより、互いの考えを視覚的に共有することができ、班の中の議論を深め、学習課題に対する意見整理を円滑に進めることが可能となる。



#### ツール

#### 方法と実践

- ・ ホワイトボードツール
- ・ 大型提示装置
- ・ プレゼンテーションツール
- ・ 書き込みをしたデジタル教材



## C 3 協働制作

児童生徒用端末等を活用して、画像・音声・動画などを用いた資料・作品を、班で分担したり、協働で作業しながら制作したりすることが挙げられる。班で役割分担し、クラウドサービスを活用するなどして、同時並行で作業することにより、他者の進み具合や全体像を意識して作業することが可能となる。また、画像・音声・動画などを用いて作品を構成する際、表現技法を話し合いながら制作することにより、児童生徒が豊かな表現力を身に付けることが可能となる。



### ツール

- ・画像・音声・動画記録再生機能
- ・プレゼンテーションツール
- ・データ保存ツール

### 方法と実践



## C 4 学校の壁を越えた学習

インターネットを活用し、遠隔地や海外の学校、学校外の専門家等との意見交換や情報発信などを行うことが挙げられる。インターネットを用いて他校の児童生徒や地域の人々と交流し、異なる考えや文化にリアルタイムに触れることにより、多様なものの見方を身に付けることが可能となる。また、web 会議等により学校外の専門家と交流して、通常では体験できない専門的な内容を聞くことにより、児童生徒の学習内容への関心を高めることが可能となる。



### ツール

- ・web 会議ツール
- ・メール

### 方法と実践

